

JA山形おきたまが進める「JA自己改革」



現在、JAグループでは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」という3つの基本目標を掲げ、「JA自己改革」に取り組んでいます。JA山形おきたまでは、これまで「生産者手取りの最大化を図る」ことを第一として独自の取り組みを進めてきました。

JAではこれからも、組合員の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、営農や暮らしに対するニーズを掘り起こし、地域農業発展のために共に進んで参ります。

農業者の所得増大

◎おきたま統一共選

JAでは昨年3月、南陽市に「おきたま統一共選」の中核を担う「広域集出荷施設」を新たに建設しました。最新の選果機能を備えたこの施設の本格稼働によって、品質の「高品位準化」と「安定出荷」を一段と進め、有利販売による高値取引によって、生産者手取りの向上を目指します。



◎高鮮度貯蔵施設

大粒ブドウ「シャインマスカット」を「高鮮度貯蔵施設」に貯蔵・出荷し、年末の需要期に合わせることで通常より高値で販売することが可能となりました。さらに、高畠町の施設に加えて南陽市に貯蔵施設を新たに建設したことで貯蔵量は倍となっています。



◎おきたまオリジナルブランドの開発

置賜地域を象徴する商品としてJAが主体となって企画開発した「おきたまオリジナルブランド」。第1弾の「山形グミ おきたまデラウェア」は100万袋を超える大ヒット商品となっており、続く第2弾の「山形おきたまデラウェア アルコールフ



リー」そして昨年11月には第3弾「おきたまデラまめ」を発売しました。地域名を活かした商品を全国的に販売していくことで、置賜の知名度向上を図り、地域ブランド戦略の要としての重要な役割を果たしています。

農業生産の拡大

◎担い手を明確にした支援 新規就農者確保・定着に向けた支援

地域農業を維持・拡大していくためには「担い手の確保」が欠かせません。JAでは「担い手を明確にした支援」によって、地域農業を支える農家に対して機械導入などへ支援するほか、「新規就農者確保・定着に向けた支援」では、農業を志す人へ農地賃借料の補助や指導農家に対する助成や、資材購入費の助成を行っています。

